



丹那断層1



丹那断層2

国指定天然記念物が確認できる函南町にある丹那断層公園に行ってきました。ここでは丹那断層と北伊豆地震の状況が解説表示され、ミニサイズ立体地形モデル、そして地下断層観察室で断層状況の一部を目視確認する事が出来ました。

北伊豆地震は1930年(S5年)に発生し地震の規模はマグニチュード7.3、震源は丹那盆地付近の地下5Km、震度6の直下型大地震でした。この時動いた断層は、芦ノ湖から修善寺まで続く長さ30kmの丹那断層帯の代表的な断層です。

当公園はその時に活動した丹那断層のズレ跡を示す場所です。丹那断層はこれまでの調査により、過去6000年から7000年の間に小さな活動も含め9回の断層活動があったことが知られています。本断層は約700年から1000年の周期で活動を繰り返し、約2mの割合で左横ズレを続け、約50万年前から現在に至るまで左横ズレ1Km、西側地塊が100m以上隆起したと推定されています。



丹那断層3



丹那断層4

丹那断層公園には休憩所、トイレ、無料駐車場なども完備しています。また写真右のような「丹那断層公園」から「火雷神社」までの立体地形モデルが展示され、見やすくなっています。



丹那断層5



丹那断層6

写真上左は発掘された時の丹那断層の様子が3次的に判るよう発掘地内に必要な長さを持つ帯状の区画を設定し、その部分を掘り下げた様子(トレンチ内部)がよく確認できます。写真上右は



地形モデル平面図です。



[丹那断層7](#)



[丹那断層8](#)

北伊豆地震の前ぶれ、あるいは引き金として昭和5年2月頃から発生し始めた伊東市付近の海底での群発地震が取り上げられています。

その後も小さな地震が100回以上確認されました。この地震はマグマが地表に上昇しようとする火山活動によっておこる火山性地震でした。その後一時期発生は無かったのですが、同年11月中旬以降には伊豆の南北を走っている山の中に震源があるような様子を見せてきました。

地震発生: 昭和5年11月26日、午前4時2分、突然大音響と共に大振動が20秒も続き暗黒の世界と化しました。震源は丹那盆地の地下0~5Km、震央付近の震度は6、直下型の大地震でした。写真は北伊豆地震の痕跡です。



[丹那断層9](#)



[丹那断層10](#)

写真上左は石で丸く囲んだ円形のごみ捨て場が断層により変化した様子です。この状況は当公園内で保存されていますので目視確認できます。写真上右は説明文です。



[丹那断層11](#)



[丹那断層12](#)

断層地下観察室では地下がどうなっているかを観察できるように、断層を東西方向に横切って深さ3m、床の幅3~5mの溝を掘って断層の様子が目視できるようになっています。解説表示もありますので確認して頂ければより判りやすくなります。



[丹那断層13](#)



[丹那断層14](#)

地下観察室は屋根付きとなっていますので、悪天候時にもゆつくり観察できます。

地質学、断層、地震等に興味のある方、是非お勧めのスポットです。無料Pもありますのでご利用下さい。

取材：中伊豆地区 生きがい特派員 安藤 智章